

2017年(平成29年)

第113号

(5月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

明るい社会づくり運動 ～晴天のもと各地区で活発な動き～

4月16日、伏見稲荷大社においてお花見清掃ハイキング(主催：明るい社会づくり運動京都連絡協議会、以下明社)が行われ、明社会員約50名が参加しました。

観光地の美化を進めようと企画され、各自が持ち寄ったゴミ袋を片手にゴミを拾いながらハイキングを行いました。朝の集合場所には国会議員も駆けつけて頂き、参加者に応援の掛け声をされていました。

有名な観光地であるにもかかわらず意外とゴミは少なく、また晴天に恵まれたこともあり結果的にはハイキングをメインに楽しんだ格好になりました。昼食をとる場所からは京都市内が一望でき、その眺めの美しさに参加者は喜び溢れていました。

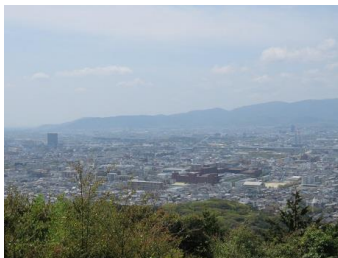
今後この清掃ハイキングは京都の観光地を中心に各地で行われる予定です。

また同日、第27回福祉バザールが宇治市総合福祉会館前において開催されました。宇治明るい社会づくり運動の会(宇治明社)が主催し、宇治市、宇治市社会福祉協議会、京都新聞、城南新報、洛南タイムスの後援と、宇治市内外から福祉団体や個人の方々の出店により、盛大に開催されました。

バザールの開始に先立ち、志津川福祉の園の方々による太鼓演奏、佼成スパークルブラスのみなさんによる演奏パフォーマンスがあり、にぎやかな幕開けになりました。続いて、来賓の方々の挨拶がありました。

(挨拶された方々＝山本正宇治市長、山井和則衆議院議員、田中美貴子京都府議会議員、酒井常雄京都府議会議員、上原敏城陽市議会議員、伊藤義明宇治市社会福祉協議会会長)そして、平塚実行委員長の開会宣言とともにバザールがスタート。集まった人々たちが一斉に買い物を始めました。これまでのバザールでは、宇治明社がほとんどのコーナーを担当していましたが、今回新たに参加した団体や個人の方々がいました。(明社以外の出店者＝宇治川福祉の園[クッキー、焼きもの]、いくさ事業所[カレー、から揚げ]、ミナモトカフェ[クレープ]、北山さん[焼き菓子]、吉岡さん[アクセサリー]、清水さん[アクセサリー])

収益金は全額宇治社会福祉協議会に寄付され、地域の福祉に役立てられます。宇治明社と地域の福祉に携わる人たちの交流の場にもなった今回の福祉バザール。今後ますます、福祉の輪が広がっていくことを期待したいものです。



時事刻々

五月に入ると京都のあちこちで祭りが行われます。稲荷大社、藤森神社、上御霊神社などの祭が有名です。何よりも、京都三大祭りの一つである「葵祭」には、世界各国から見学する人が集まってきます▼祭といえは、多くの人が集まってきて、にぎやかに楽しむもの、というイメージがあります。しかし、語源をたどって行けば、そうではなさそうです▼「まつり」には「祭り」「祀り」「奉り」などの漢字が当てはまります。「祭り」は霊を慰める(慰霊)ことであり、「祀り」は神に祈ること、「奉り」は神にお供えすることだそうです▼祭礼につきもののひとつに「稚児行列」があります。子どもの純粋さや、生命力あふれる姿を見て、神仏に喜んでもらいたいという願いがあるのだそうです▼現代人は「まつり」が神への感謝と祈りが基本にあることを忘れ、賑やかな行事に気が取られがちです。だから信仰者として、願いを込めて「まつり」にふれていきたいものです。

平成29年、私たちは「育てよう若い力！ 一日一軒、出会いに行こう！」を實踐して参ります。

今月のことば ～「させていただく」～

支部男子部長 近藤 直毅

今月は、青年部右京支部男子部長の近藤が担当させていただきます。どうぞ、よろしくお願い致します。

5月の会長先生のご法話は『させていただく』です。私はこのタイトルを見た時、「ああ、自分の課題だ」と思いました。

私は支部の男子部長のお役を頂いていますので、青年部というより支部で活動させて頂く事が多く、夜勤の仕事をしている関係上、夜勤明けの朝に教会に来て、お役をさせて頂いたりする事が多いのですが、誰かに「〇〇をして下さい」と言われれば「はい」と素直に言えるのですが、自分から何かをお手伝いしたい時、手を差し伸べたい時に思うように動けないのです。

教会の先輩方は何かと気がつき、ささっと手を差し伸べられるのを見て自分は一步遅れてしまい固まってしまうのです。この時に一步自ら進む事が出来たら私は信仰者としてもう一步踏み出せるのにといい、最近仕事でも教会でも、先読みをするように心がけています。まだまだですが、少しずつでも先輩方に近づきたいと思ひ、実践させて頂いています。

私は、『仏さまへの感謝』という所を読んで、自分には感謝が足りないなと思ひました。私の母は、私が生まれる前から精神病を患ひ、妄想や幻聴に振り回され、ガラスや食器を割ったり、家の外にも十二分に聞こえる金切り声を毎日上げ、疲れては眠る。朝から深夜までずっとそれは続き、聞こえてくる幻聴に対していらつき、馬鹿とか、死んでしまえとか、四六時中幻聴と妄想に向かって怒鳴り散らす日々でした。私は小さい頃から母のそういった姿しか見えていなかったし、そうではないと分かってはいるのですが、自分に向けて怒鳴られているように感じる事も多く、とても心穏や

かには居られない毎日でした。そんな母が数年に一度、精神科に入院した時にはどれだけ心休まった事か。思ひ出すのも書くのも嫌なのです。正直、母は嫌いでもし関わりたくもありません。しかし自分の母なのです。生まれてからずっと罵詈雑言を浴び続け、私は何故生まれたのか、何を願われて生れたのか。自分の運命を憂ひ、自死を願った日々もありました。親が子供を作る行為は生まれてくる子供に対して何も保証してあげられない。非常に自分勝手な行為だと感じていました。

しかし、20歳の時、京都教会で成人式を迎え、仲間にも恵まれ教を学び、常日頃から感謝の念や、させて頂くという事を学ばせて頂く中で、病気になる前の母の姿や、母の良かった所を探そうと思ひるようになりました。母は数年前に通院時にコケて足首の骨を折り、体は治ったのですが、本人に歩く気力が無く、歩けなくなってしまい、老人向けの精神病棟に入院となりました。私の苦悩は消え、金切り声を聞くことも無くなり、心が落ち着きました。そして落ち着いて物事を考えられるようになった時ようやく、生まれてからずっと、苦悩ばかりではなく幸せを感じられるような出来事もあった事や、今の落ち着いた生活が幸せだと感じるのはある意味で母のおかげ様なのだと思うようになりました。

私の次のステップは入院中の母にお見舞いに行く事です。どうしても心のわだかまりが消えず、会いたくない気持ちが強くて行けないのですが、幸せを感じられる事、今生きている事に感謝して、乗り越えなければいけない課題なのだと感じました。ですので、母の日までには一度お見舞いに行ってきます。

ありがとうございました。

合掌

蓮の植え替え ～法の華を自らの心にも咲かせて～

4月1日の午後、蓮華の会のメンバーが中心となり壮年部員12名で10鉢の蓮の植え替え作業を行いました。

直径50cmほどもある大きな鉢をひっくり返し、今までの土や根を洗い流して、新しい土の中に根を入

れていきます。上手くいけば7月頃からつぼみが出てきます。初めて参加した壮年部リーダーは「いつも教会玄関できれいだなと思っていましたが、これほど大変な作業だとは思っていませんでした」と蓮華の会のメンバーに感謝されていました。



第55回かめおかこころ塾 ～世界平和への祈り～

4月8日、第55回かめおかこころ塾（主催：かめおか宗教懇話会）が亀岡市のガレリアかめおか研修室において開催され、懇話会加盟団体の会員約40名が参加しました。

今回は臨済宗妙心寺派東光寺先住職の宝積玄承師が「世界平和への祈り」という題目で講演されました。1ヶ月間、バチカンとの交流を含め5か国との交流を行ってきたと報告があり、バチカン諸宗教対話評議会から日本仏教信者あてのメッセージも朗読されました。

宗教者自身が争ってはいけないという宝積師の信念から東西の交流を進めてくれました。過去にもヨハネパウロ2世は修道院に日本の禅宗の僧侶を招



いて交流を進めてくれました。講演の最後に今年の8月4日に比叡山で行われる、宗教サミット30周年について触れ、「お互いさま、平和への道を歩もうではないか」と提唱され、会場からは拍手で包まれました。



新宗連京都府協議会年次委員会 ～29年度の事業計画を承認～

4月13日、京都普門館において平成29年度新宗連京都府協議会「年次委員会」が開催されました。加盟教団から16名が参加し、平成28年度の事業報告・決算報告が行われ、平成29年度の事業計画が協議されました。

委員会に先立ち、7回忌にあたる東日本大震災の犠牲者のご冥福と復興、世界平和を祈願して黙とうが行われ、新宗連の歌「いのち輝く」と新宗連スローガンを唱和されました。続いて、新宗連協議会京都府協議会の佐藤益弘議長と新宗連大阪事務所の生田茂夫所長の挨拶がありました。

平成29年度の事業計画として、6月に生田所長を講師に招き「新宗連の歴史を学ぶ学習会」を開催、10月に恒例の「教団訪問」を実施することを決めました。さらに青少年の取り組みにも全面的に支援をしていくことも確認されました。そして、新宗連のスローガンである「信仰心を広め」「世界の平和に貢献」していくと誓い合いました。

年次総会終了後、参加者は懇親会の会場に移動し、互いに親しく語り合い、楽しい時間を過ごしました。



接遇チーム発会のお知らせ ～各種行事で活躍予定～

4月2日に接遇チーム発会式が行われました。これは8月3～4日の比叡山宗教サミット30周年に向け、今から準備を進めるために立ち上げられました。佐藤教会長さんからは接待を通して日頃より、いかに相手に喜んで頂ける自分になるか、京都に来て良かったと

思ってもらえるようにと心構えを頂きました。素直に前向きに受けて頂き、明るく和やかにスタートしたこのチームでは、学んだことを家庭や社会などで発揮して頂ける婦人部さん女子部さんの育成を目指したいと思います。

法華經にみる平和の教え 『法華經の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

前回に引き続き「宗教協力の意義」について学んでいきます。今回は「正しい大宗教の信仰の対象となる大本は一つであるが、交通が不便で民族間の意思の疎通ができなかった時代には互いに異なる神仏を信仰しているように思い込んでいた」というところまで学んできました。
(編集部)

現代は、交通・通信機関の極度の発達によって、世界は狭くなりました。世界中の人びとの考え方も、だんだん共通になりつつありま、この傾向は、これからもいよいよ強くなっていくことは必至です。そういう時代になってまで、あらゆる宗教が、それぞれ孤立し、あいかわらず排他性をもっているというのは、時代錯誤もはなはだしいというべきです。

現在においても、北アイルランドでカソリック系市民とプロテスタント系市民との対立があります。また、中東においてはイスラム教徒とユダヤ教徒との大規模な闘争があります。これは、いちおう宗教戦争の様相を呈していますけれども、じつは、もっと現実的な、領土に対する執着やよりよい生活への願望などが主原因であって、異端への憎しみは、それに油を注いでいるものだと思うのです。異なった宗教を信する者に憎しみを持つことは、まだまだ前時代のしっぽをくっつけている証拠であって、はたして二十世紀の文明人の名に値するか、疑わしいといわなければなりません。

神を<守護神>の意味にしか考えていない宗教があるとすれば、それは一段と低いもので、民俗的には、味わいがあって捨てがたいものでありますが、現代および未来の社会においては宗教の名に値しないと思います。そういう信仰の集団は、村落のような、きわめて小さいものにはあまり排他性はありませんけれども、部族・民族というように規模が大きくなりますと、いまだに強い排他性が見受けられるのは、神というものの本義を知らないからでしょう。

そのような<守護神>にしても、大本を探れば、ただ一つの宇宙生命の分身に違いありません(もちろん、われわれ人間も宇宙生命の分身ですが、不自由な肉体を持ち、現象世界に束縛されているためにそれを知らず、原始的宗教においては、超自然的な能力を持つ霊界の存在

を神として崇め、それに幸福の授与と生命の守護を祈ったわけです)。

ところで、世界中が、たくさんの集団に分かれ、意思の疎通が思うようになかった時代には、その分身の種類も、たくさんなければならなかったでしょう。しかし、人間の集団の規模が外面的にもいよいよ大きくなっていく未来において、「これこそ、われらが守護神である。おまえたちには通用しない」という孤立性は、霊の世界においても、しだいになくなってくるものと、わたしは信じています。

このような思想と信念にもとづいて、わたしは、ひところ宗教統一ということを楽しみに唱えていました。しかし、それは百年先か二百年先に実現するしかないかという理想であって、現在の世界においては、統一という言葉は誤解を生じ、逆作用も起こしかねないことを悟りました。なぜならば、何千年、何百年のあいだ身にしみつき、血にとけこんでいる自民族の宗教の信仰所作というものは、理屈を抜きにして、なかなか離れがたいものであるからです。

それゆえに、わたしは理想に達するまでの一段階として、宗教協力という言葉を用いることにしました。そして今日まで、その唱導と実践に、あらゆる努力を払っているつもりです。

ただ、ここでぜひ言い添えておきたいことは、宗教協力というのは、各宗教団体や個々の宗教信仰者が、ある目的のために、実践の上だけで協力し合うという意味ではありません。たとえば、赤い羽根募金に各教団がこぞって協力する、といった程度のものではないのです。そういった形の上のみの協力ではなく、心の底から理解し合い、手を握り合うことをいうのです。そうでなければ、世界を平和にし、全人類の幸せを進めるといふ大事業は達成できないからです。

5～6月の主な教会行事			●メッセージ
5月1日(月)	9:00～	朔日参り	5月号の編集期間、日本海では米朝の緊張が高まっています。あるテレビ番組で現職国会議員と元知事の対談がありました。司会者からの質問に国会議員はミサイル防衛のことについて、その能力の説明がありました。それに対し元知事は知事時代に北朝鮮に入国した経験を踏まえ、北朝鮮と言えども「人」が作っている国である限り対話が可能だと持論を述べました。紛争解決の糸口は力ではなく対話だと思いました。
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日	
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日	
15日(月)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日	
21日(日)	10:00～	青年の日こころひとつにフェスティバル	
6月1日(木)	9:00～	朔日参り	
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日	
10日(土)	9:00～	脇祖さまご命日	
14日(水)	7:00～	議員懇話会	
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日	

